

大阪広域生コンクリート協同組合サステナビリティレポート 2022-2023 年度

0. サマリー等

0-1. 理事長の方針、委員会体制の変更

- 2022 年度より、SDGs 委員会体制の刷新を行いました。
- 大阪広域生コンクリート協同組合の存在意義と行動理念を起点に、2019 年に SDGs 宣言を採択し、様々な取り組みを行って参りました。今般、更なる活動の充実のため、各ブロックから SDGs 委員会の委員を 1 名選出し、啓発活動を中心に各地の事情に合わせた活動ができるように組織改編を行い、2022 年度以降は活動して参りました。

0-2. 全体的なサマリー

- 2022 年-2023 年の SDGs 活動報告のとりまとめ
- 3 つの優先課題の状況

優先課題 1：イノベーションの取り組み（ゴール 9,12）

- ・2022 年 6 月「暑中コンクリート工事における対策マニュアル 2022」の第 2 次改訂を行いました（詳細は 1. 参照）

優先課題 2：レンジエンス-事業継続・防災（ゴール 11,17）

- ・2022 年に「枚方寝屋川消防組合」、「姫路市」、2023 年に「茨木市」と防災協定を締結。現在、18 自治体と防災協定を締結済み。また、2022 年-2023 年度に同道で 8 回の防災訓練を実施。
- ・2023 年度は組合員向け BCP 啓発セミナーを実施し 130 社が参加。

優先課題 3：社会貢献活動（ゴール 1,4）

- ・以下の各種団体への寄付
(公財)チャイルド・ケア・サポート基金、認定 NPO 法人 神戸アイライト教会、(公財)小さないのちのドア、児童養護施設 海の子学園、児童養護施設 田島童園、iPS 細胞研究基金
- ・地域の清掃活動の実施 等

その他の活動：上記優先課題 1～3 以外の取り組み

- ・2022 年度 ブロック単位で組合員（社長・オーナー）へ SDGs セミナーによる啓発（詳細は 4. にて）
- ・2023 年 9 月 1 日～24 日：毎日新聞社の「SDGzoo-2023」に協賛

0-3. 本レポートの対象期間

- 2022 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）、2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）の 2 期を対象としています。

1. 優先課題1：イノベーションの取り組み（ゴール9,12）

1-1. 2022-2023 年度の取り組み

①目標に対する取り組み

2021 年統合報告書に設定した目標	2022-2023 実績・活動内容
☐ 暑中期のコンクリート温度に起因する返品状況を確認する ☐ 次期「暑中コンマニュアル」の改訂に向けての活動を再開する	2022 年活動・実績 ☐ 2022 年 6 月「暑中コンクリート工事における対策マニュアル 2022」の第 2 次改訂を行いました。 2009 年に日本材料学会近畿支部 材料・施工部会と大阪広域生コンクリート協同組合と共同で結成した「暑中コンクリート対策検討委員会」では、2013 年に初版が発刊された。2019 年に改訂があり、既に荷卸し時(受入れ時)のコンクリート温度を 38℃まで許容される内容が盛り込まれています。本マニュアルは近畿地区のみならず全国で反響があり、また建築分野のみならず土木分野への影響もありました。2020 年には、大臣官房官庁営繕部整備課から各地方整備担当等へ、指針やマニュアルを確認し荷卸し時(受入れ時)のコンクリート温度への対応を促す事務連絡が出されるに至りました。これらを受け更なる円滑な運用に向けて、今回 2022 年に改訂されました。これにより、大阪府下 106 工場、兵庫県下 60 工場、奈良県下、18 工場、和歌山県下 22 工場、京都府下 23 工場、滋賀県下 18 工場の計 247 工場へと、地域と生コン工場数が大幅に増加しています。今回の改訂では、初版（2013 年）及び 2019 年改訂の基本方針を継続すると共に室内実験などを行うことを前提に適用可能としました。 また、高炉セメント C 種や混和材としてフライアッシュ II 種を使用したコンクリートに関しても実験結果を付録に盛り込み、性能確認の上、円滑に適用できるよう整備しました。今回の改定以降、荷卸し時(受入れ時)のコンクリート温度に関して、大きな事案は、発生しておりません。 ※関連記事 2022.06.13 「暑中コンクリート工事における対策マニュアル 2022」改訂報告会 https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/4471/

□検査試料の少量化について「報告書の発刊」をする	□検査試料報告書「試験採取時の廃棄試料減量に関する標準化の提案」を発行しました。 大阪広域生コンクリート協同組合・大阪兵庫生コンクリート工業組合（i-Construction 実現ワーキンググループ）により、第22回生コン技術大会にて「試料採取時の廃棄試料の減量に関する標準化の提案」を発表しました。 なお、本研究論文は全生連より「優秀賞」として表彰されました。また、JIS A 5308 2024 改正でも、本実験結果が評価され選考理由の一つと考えられます。日常業務の改善を図る目的で、JCI 近畿支部「コンクリート試験の省力化に関する検討委員会」と連携し取り組んだ内容で、最初に除く量を減量させることにより、廃棄物および容積保証を減少させることが可能になりました。実験の結果、最初の 20L を除き、20～50L を試料として用いても試験結果に及ぼす影響が小さいことを確認しました。また、各工場が標準化するための参考となる基礎資料整備についても提案することができました。コンクリートの練混ぜ時点の試料採取分の容積保証を 50L に変更することができ、産業廃棄物の減少に加え、試験業務省力化にも繋げることが可能となりました。既に数工場が標準化を済ませています。 2023 年活動・実績 □2023 年 12 月 技術部による SDGs 委員会向け勉強会を開催し、協同組合の取り組みを学びました
---------------------------------	--

②目標外の取り組み

テーマ	2022-2023 実績・活動内容
□カーボンニュートラルの啓発活動 □CO₂ の排出削減の年間推移を測定し、長期的な排出削減を目指すこと	□ビルの解体に伴い発生する廃棄コンクリートを再生する「再強コンクリート」を開発し、「大阪広域協組先端技術研究開発プロジェクト（仮称）」の建屋基礎部分に活用し、廃棄の削減と CO₂ 排出削減に取り組んでいます。

1－2．優先課題 1 の今後の取り組み・予定

- 「大阪広域協組先端技術研究開発プロジェクト（仮称）」にて、引き続きカーボンニュートラルや廃棄削減の技術開発を行います。

※関連記事：2022.10.04（仮称）大阪広域協組先端技術研究開発プロジェクトのホームページが公開されました <https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/?pid=all>

2. 優先課題2：レンジエンス-事業継続・防災（ゴール 11,17）

2-1. 2022-2023 年度の取り組み

①目標に対する取り組み

2021 年統合報告書に設定した目標	2022-2023 実績・活動内容
☐ 防災協定を締結した自治体との合同訓練強化 ☐ BCP 策定の啓蒙活動（備蓄品の導入推進に向けた情報発信） ☐ 備蓄対応した上で、AED 導入推進に向けての情報発信、新たに導入した組合員の数を追う	2022-2023 年の防災協定締結、合同訓練活動・実績 ☐2022 年に「枚方寝屋川消防組合」、「姫路市」、2023 年に「茨木市」と防災協定を締結しました。現在、18 自治体と防災協定を締結しています。 また、2022 年-2023 年度に同道で 8 回の防災訓練を実施しました。 ※関連記事： ・ 2022.09.14 枚方寝屋川消防組合との消防用水に関する協定締結式 https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/4788/ ・ 2022.11.02 姫路市と「災害時における消防用水、生活用水等の供給の協力に関する協定」を締結しました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/4986/ ・ 2022.11.17 令和 4 年度 姫路市総合防災訓練・国民保護訓練に参加しました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/5137/ ・ 2023.01.30 令和 4 年度淡路島総合防災訓練に参加しました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/5337/ ・ 2023.05.23 茨木市と「災害時における消防用水等の確保に関する協定」を締結しました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/5653/ ・ 2023.08.03 枚方寝屋川消防組合との合同訓練に参加しました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/5780/ ・ 2023.11.08 茨木市消防本部との合同訓練を実施しました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/6131/ ・ 2023.11.21 淡路島 3 市で総合防災訓練が行われました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/6168/ ・ 2024.03.13 活動 枚方寝屋川消防組合と合同訓練を行いました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/6538/

	2022-2023 年 BCP 策定の啓蒙活動活動・実績 □2023 年上期：委員会メンバーへの BCP 策定セミナー、風水害シミュレーションゲーム「風水害 24」の実施 □2023 年下期：組合員向け BCP 啓発セミナー 130 社が参加。セミナー前後でアンケートを取り、「BCP 策定はおこなっているが、必要な対策は今後検討する」としていた企業数がセミナー前 34 社→セミナー後 40 社、「現在、BCP 策定に取り組み中である」としていた企業数が 24 社→44 社となり、セミナーの啓発効果が出ているものと考えられます。 2022-2023 年 AED 導入推進 □AED 導入推進については、個社で実施するものとして当組合としては実施しませんでした。
--	--

2023 年 6 月 29 日 SDGs 委員会にて風水害シミュレーションゲーム「風水害 24」の実施風景



②目標外の取り組み

テーマ	2022-2023 実績・活動内容
□被災地支援	□2024 年 2 月 14 日～15 日 能登地震の被災地である、輪島市の避難所で炊き出しを実施。 https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/6426/

2-2. 優先課題 2 の今後の取り組み・予定

□BCP 策定組合企業を増やす活動を継続的に行っていきます。

3. 優先課題3：社会貢献活動（ゴール1,4）

3-1. 2022-2023 年度の取り組み

①目標に対する取り組み

2021 年統合報告書に設定した目標	2022-2023 実績・活動内容
☐ 組合員への（寄付活動の）周知徹底、SDGs からの内容見直し ☐ 寄付先の施設訪問の際、組合員に同行してもらい交流の機会を持つ ☐ 神戸・淡路・兵庫西部の事務所でも清掃活動を行う	2022 年活動・実績 ☐ 2022 年度は以下に寄付を行いました。 寄付先：（公財）チャイルド・ケア・サポート基金、認定 NPO 法人神戸アイライト教会、（公財）小さいのちのドア、児童養護施設 海の子学園、児童養護施設 田島童園、iPS 細胞研究基金 ☐ 2022 年度は地域の中学生への職業体験（工場見学）や絵画コンクール、清掃活動等を行いました。 ※関連記事 ・ 2022.08.03 職業体験の一環で工場見学をおこないました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/4652/ ・ 2022.12.07 未来の街を描こう絵画コンクール 表彰式 https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/5180/ ・ 2023.02.08 ミキサー車に園児の似顔絵が描かれました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/5425/ ・ 2024.03.12 兵庫県の三宮にて清掃活動を行いました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/6526/ 2023 年活動・実績 ☐ 2023 年度は以下に寄付を行いました。 寄付先は 2022 年度と同じ なお、寄付先の見直しは当年度では実施せず、今後は企画委員会へ引き継ぐこととなりました。 ☐ 2023 年度は清掃活動を行いました。 ※関連記事 ・ 2023.10.06 日本コンクリート工学会主催の親子体験教室参加 https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/5993/ ・ 2024.03.12 兵庫県の三宮にて清掃活動を行いました https://www.osaka-kouiki.or.jp/news/6526/

②目標外の取り組み

テーマ	2022-2023 実績・活動内容
特に該当無し。	

3-2. 優先課題3の今後の取り組み・予定

☐ 地域の実情に応じた寄付先選定など、寄付のあり方を企画委員会に引継いで活動を継続します。

4-1. 2022-2023 年度の取り組み

テーマ	2022-2023 実績・活動内容
□SDGs そのものの啓発	□2022 年下期：組合員向け SDGs 基礎セミナーを実施し、SDGs の啓発を行いました。2022 年 10 月 18 日～12 月 21 日にかけて、ブロック毎に SDGs セミナーを開催した。対象参加工場は 159 工場、参加工場は 145 工場、参加率 91.2%でした。 講師：一般社団法人 SDGs 推進士業協会 特定社会保険労務士 山本 哲史氏
□毎日新聞社「SDGzoo-2023」への協賛	□2023 年 9 月 1 日～24 日：毎日新聞社の「SDGzoo-2023」に協賛しました。9 月 1 日～24 日王子動物園、10 月 24 日～11 月 12 日天王寺動物園で開催され、小学生が SDGs 活動の意義を勉強するイベントに協賛し、当協組の取組を広報しました。

毎日新聞社の「SDGzoo-2023」協賛チラシ



5. ガバナンス体制（内部統制）

5－1. 組合の概況について

名称



事業内容 生コンクリートの共同販売

所在地 〒541-0048 大阪府中央区瓦町2丁目4番7号新瓦町ビル5階

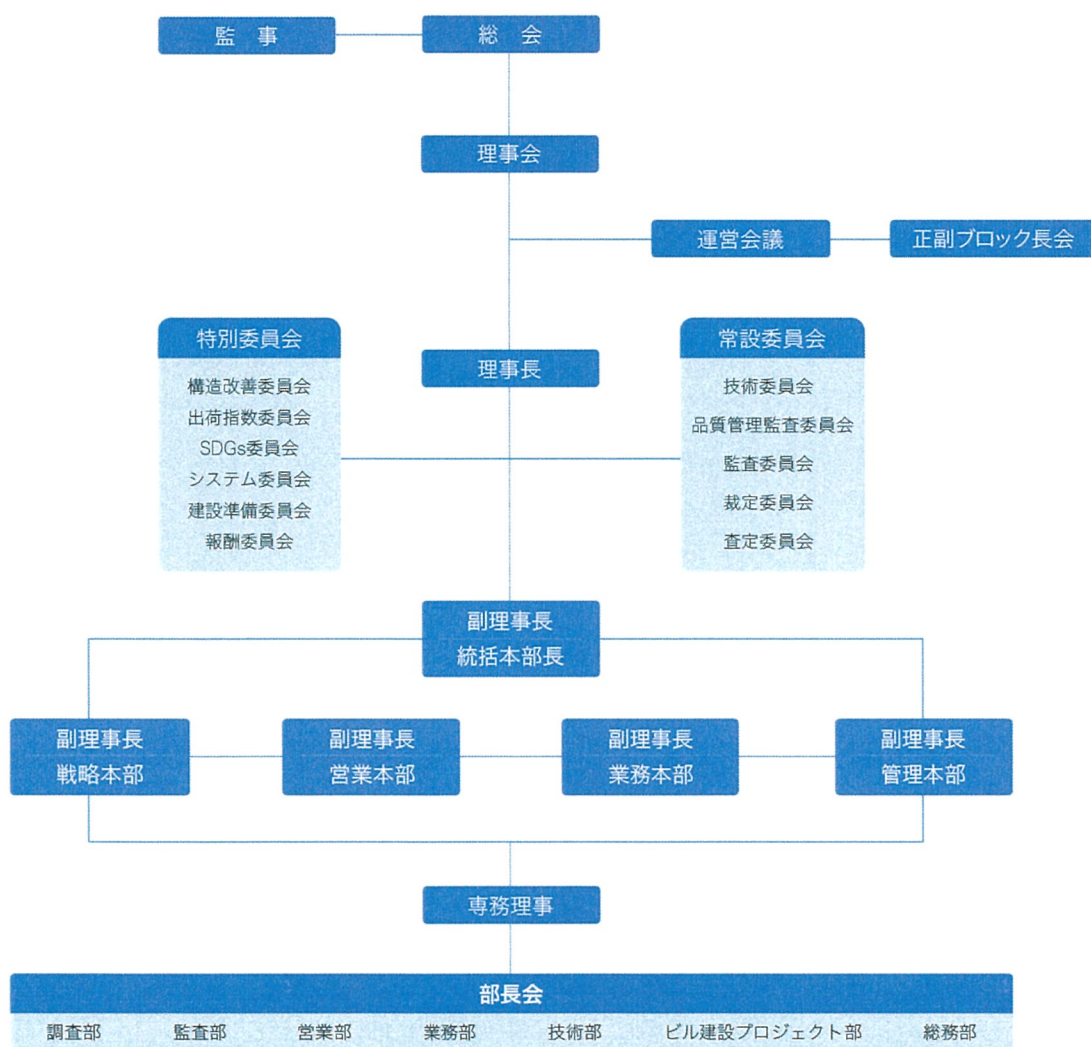
TEL.06-6222-5661 FAX.06-6222-5662

出資金 16億5,000万円（2020年度）

売上高 1,524億3,036万円（2020年度 2020年4月1日～2021年3月31日）

取引先銀行 近畿産業信用組合 徳島大正銀行 その他

5－2. 組織図



5－3．役員一覧

役職	氏名	担当
理事長	木村 貴洋	査定委員会・SDGs 委員会・建設準備委員会
副理事長	地神 秀治	統括本部長・戦略本部長・裁定委員会・構改委員会
	岡本 真二	営業本部長・報酬委員会
	大山 正芳	業務本部長
	菅生 行男	管理本部長
専務理事	野原 峯明	出荷指数委員会・システム委員会
常務理事	山崎 慎司	中央ブロック長・営業部長
	植田 重夫	北ブロック長・監査委員会・監査部長
	檜尾 哲也	西ブロック長
	高本 克法	東部ブロック長
	山田 英幸	阪南ブロック長・業務部長
	椿原 二郎	南ブロック長
	仁木 吉光	神戸ブロック長
	碓 勝徳	淡路ブロック長
	串田 康圭	北摂ブロック長
	谷川 徹	北神ブロック長
	井口 博文	播磨ブロック長
	西田 快人	兵庫西部ブロック長

5－4．理念

日本最大・日本初の協同組合として

大阪広域生コンクリート協同組合は、「中小企業等協同組合法」に基づいて平成 7 年に設立されました。現在、大阪府と兵庫県の広域エリアで最大の組合員数を擁し、全国で 300 以上ある生コンクリート協同組合の中でも最大の規模を誇っています。また、日本で初めて外部監査を取り入れた透明性の高い協同組合でもあります。日本最大・日本初の協同組合としての社会的責任を果たすべく、以下の 4 つを理念として掲げ、全組合員が共同して上質な生コンクリートを製造・販売しています。



6. 今後のレポート発行について

2020 年度より取り組んできましたサステナビリティレポート（2021 年度は統合報告書）につきまして、今回の「大阪広域生コンクリート協同組合サステナビリティレポート 2022-2023 年度」をもちまして、外部向け公開レポートの形式による発行作業は終了いたします。

以降は、組合 Web サイトトップページの「お知らせ News」において「CSR 活動」として、当組合の SDGs／サステナビリティの取り組みを随時発信いたします。当組合の SDGs／サステナビリティの取り組みについて、ステークホルダーのみなさまへ引き続き情報発信を行ってまいります。

2024 年 6 月 5 日
大阪広域生コンクリート協同組合
SDGs 委員会

SDGs セミナー (日程 2022年10月18日～12月21日)

大阪事務所	ブロック名	ブロック長	委員名	工場数	対象工場数	参加	欠席	参加率
	中央ブロック	山崎 慎司	鈴木 峰人	18	15	13	2	86.7%
神戸事務所	東部ブロック	高本 克法	馬場 完	18	17	17	0	100.0%
	阪南ブロック	山田 英幸	上野山 正作	17	17	14	3	82.4%
	南ブロック	椿原 二郎	植田 浩司	5	5	5	0	100.0%
	西ブロック	榎尾 哲也	吉田 政男	28	28	25	3	89.3%
	北ブロック	植田 重夫	田島 哲夫	18	17	16	1	94.1%
	北摂ブロック	串田 康圭	生田 秀一	3	3	2	1	66.7%
	神戸ブロック	仁木 吉光	石原 成起	17	17	16	1	94.1%
	播磨ブロック	井口 博文	安達 和彦	21	21	21	0	100.0%
	淡路ブロック	碓 勝徳	芦野 晴貴	6	6	4	2	66.7%
	北神ブロック	谷川 徹	岩本 浩二	4	4	3	1	75.0%
兵庫西部ブロック	兵庫西部ブロック	西田 快人	西田 快人	9	9	9	0	100.0%
			計	164	159	145	14	91.2%

* 合同開催：北ブロック+北摂ブロック。阪南ブロック+南ブロック。淡路ブロック+北神ブロック+兵庫西部ブロック

SDG's 委員会 アンケート

2024年2月1日

ブロック名			委員名	質問1					質問2		質問3	計	回答率
			工場数	策定し対策も 行っている	策定している が対策は今後	策定に取組中	策定は行っ ていない	参加を希望	参加を希望 しない	意見・要望			
1	中央ブロック	鈴木 峰人		18	4	5	1	8	13	5	0	18	100%
			勉強会 勉強会	前 後	3	5	3	4		10	5	1	15
2	北ブロック	田島 哲夫		18	3	1	3	10	11	6	1	17	94%
			勉強会 勉強会	前 後	3	5	2	4		12	2	1	14
3	西ブロック	吉田 政男		28	3	3	6	14	18	8	0	26	93%
			勉強会 勉強会	前 後	1	3	4	1		7	2	3	9
4	東部ブロック	馬場 完		18	1	5	2	8	7	9	0	16	89%
			勉強会 勉強会	前 後	0	5	5	6		10	6	0	16
5	阪南ブロック	稲垣 銀河		17	2	2	3	9	9	7	0	16	94%
			勉強会 勉強会	前 後	2	4	5	2		9	4	0	13
6	南ブロック	植田 浩司		5	5	0	0	0	5	0	0	5	100%
			勉強会 勉強会	前 後	5	0	0	0		5	0	0	5
7	神戸ブロック	石原 成起		17	1	6	2	8	15	2	0	17	100%
			勉強会 勉強会	前 後	4	4	4	4		13	3	0	16
8	淡路ブロック	芦野 晴貴		6	0	3	1	2	2	4	0	6	100%
			勉強会 勉強会	前 後	0	4	2	0		1	5	0	6
9	北摂ブロック	生田 秀一		3	2	0	0	1	3	0	0	3	100%
			勉強会 勉強会	前 後	0	1	2	0		1	2	0	3
10	北神ブロック	岩本 浩二		4	1	1	2	0	3	1	0	4	100%
			勉強会 勉強会	前 後	0	1	2	0		1	2	0	3
11	播磨ブロック	安達 和彦		21	2	6	3	10	12	9	1	21	100%
			勉強会 勉強会	前 後	1	6	9	5		13	8	1	21
12	兵庫西部ブロック	西田 快人		9	1	2	1	5	7	2	1	9	100%
			勉強会 勉強会	前 後	1	2	6	0		9	0	0	9
					25	34	24	75	105	53			
				164	20	40	44	26	91	39	6	130	
					15%	31%	34%	20%	70%	30%	5%	79%	

* 質問 3

- ①能登地震を見て必要性を感じた。
②策定によって企業価値を上げていける良い取組。
③策定している工場を見本として見てみたい。
④最新の情報を定期的に聞きたい。